野崎駅周辺のまちづくりについて

大東市では、野崎駅周辺のこれからの姿をみんなで考えながら、空き地や公共施設を、地域にとって役立つ場所として活用できないか検討を進めています。これまでに、野崎駅周辺の現状と課題の整理や、空き地の活用を住民のみなさんと学ぶ勉強会の開催などを行い、少しずつ“野崎の未来を考える土台”をつくってきました。

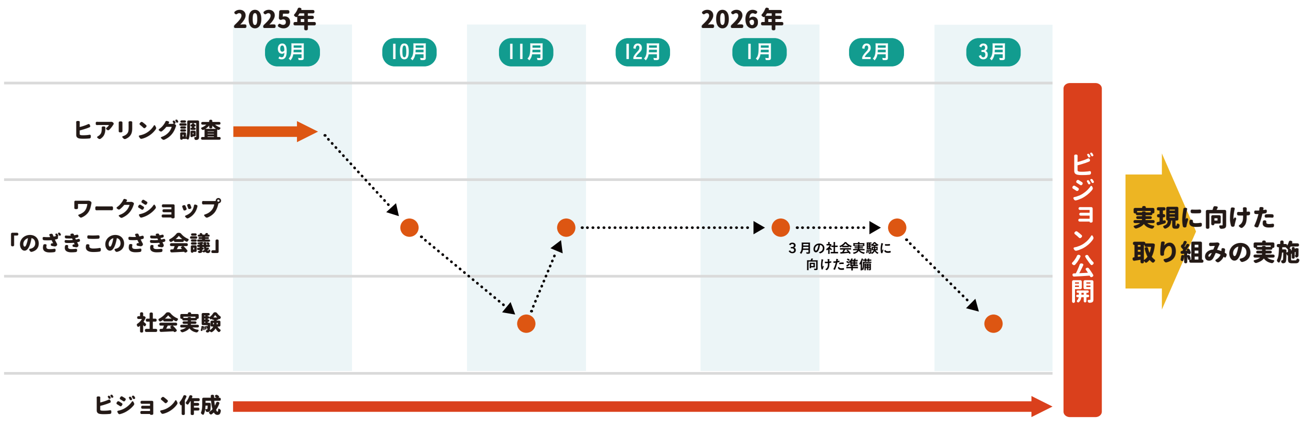
今年度は、野崎に暮らすみなさんや学生、行政が一緒になって、地域の特性や課題を考え見つめながら、ビジョンづくりを進めています。

―野崎には何があれば暮らしがより豊かになるのか？

―空き地をどう活かすと、この地域らしい場になるのか？

―暮らす人たちが安心して暮らすにはどうすればいいのか？

今年度考えたビジョンをもとに、今後は、さらにビジョンの実現に向けての活動を進めていきたいと考えています。



●次回の「のざきこのさき会議」について

参加者募集！

1/21(水) 18:30-21:00 ビジョンの実現方法をみんなで考えよう！

第３回は、これまでの取り組みの中で生まれた未来へのアイデアをどのように実現していくか をテーマに話し合います。「どんなステップなら実現に近づくのか」「地域でできることは何か」など、具体的な取り組みの方向性を一緒に考えていきます。

野崎のまちをもっと良くしたい方、これからの地域づくりに興味のある方など、どなたでもご参加いただけます。

申込方法

・参加費無料、二次元コードよりお申込みください

・申込み締切：2026年1月19日（月）

会　場

大東市立野崎まいり公園多目的ホール（大東市野崎２丁目６－１０）

NewsLetter Vol.1

のざきこのさき会議

野崎エリアの未来を考える

野崎駅周辺では、のざきまいりやハイキングで訪れる人との関わりを大切にしながら、地域のみなさんが安心して暮らしやすく、働きやすいまちをめざして取り組みを進めています。

その一環として、2025年10月より、地域のみなさんと一緒に野崎の未来を考えるワークショップ「のざきこのさき会議」を開催しています。野崎のまちをもっと良くしたい方、これからの地域づくりに興味のある野崎在住者やお勤めの方、大学生などが参加しています。

近隣にお住まいのみなさんの声も聞きながら、ワークショップに参加するみなさんと「こんな暮らしができたらいいな」という、野崎の未来のすがたを一緒に描いてきました。

みんなでわいわいアイデア出し

調査イベントではたくさんアイデアが集まりました

会議を重ねて少しずつ野崎で実現したい将来像が見えて来ました

●これまでの取り組み

1	10/23(木) 18:30-21:00	話しやすい意見交換の場を考えよう！
調査イベント	11/15(土) 11:00-17:00	もしも野崎に「楽しそうな空き地」があったら
2	11/25(火) 18:30-21:00	野崎エリアで実現したいアイデアを考えよう！

●次回の予定

3	1/21(水) 18:30-21:00	ビジョンの実現方法をみんなで考えよう！

※お申込みは裏面をご覧ください

主催・問合せ先　大東市 都市経営部 都市政策課（072-870-0483・juto@city.daito.lg.jp）

のざきこのさき会議の趣旨

野崎に暮らす人たちと一緒にこのさきを考える

野崎駅周辺エリアでは、地域で暮らす人たちが思い描く「このさきの暮らし」をかたちにするためのビジョンづくりに取り組んでいます。住民のみなさんが望む暮らし方のアイデアや、地域で実現したいアクションを集め、それらをわかりやすく可視化していきます。

完成したビジョンは、冊子などの形式でまとめ、地域の方々に広く共有できるツールとして活用します。さらに、このビジョンを土台に、今後は具体的なアクションの実施にも取り組んでいきたいと考えています。

【参考事例】洛西ニュータウングランドデザイン
洛西に暮らす人たちと未来を考え実現したいアクションを冊子にまとめた

ビジョンをつくるための４つのステップ

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
野崎で実現したいアイデア（仮説）を考える	アイデアを組み合わせながら野崎の理想の暮らし方（ビジョン）を言葉にする	誰が、どの場所で、どのように実現するのかまで検討し、実際に進めていけるようにする	野崎のビジョンとしてまとめる。さらに、実現に向けて取り組みを進めていく

1　10/23（木）18:30-21:00　話しやすい意見交換の場を考えよう！

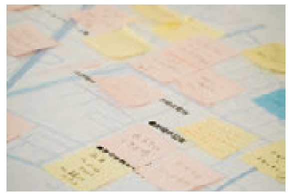
第１回は、趣旨説明と理想の暮らしについてのアイデア出しをしました。

趣旨説明

私たちがつくる「ビジョン」は、みなさんが思い描く「こんなことをやってみたい」「こんなまちになったらいいな」という想いを、言葉や絵でわかりやすく表したものです。誰が見ても「これがやりたかったんだ」「こんな景色があればいいよね」と共感できるようなイメージとしてまとめていきます。

こうしたかたちにすることで、この場に参加していない人にも思いを伝えやすくなり、「一緒にやってみよう」「こんな未来をつくっていこう」と、まちづくりの輪を広げていけると考えています。

そのため、まずはみんなの「やれたらいいな」という気持ちを、誰にとっても理解しやすい表現でまとめながら、ビジョンづくりを進めています。



ワーク「理想の暮らし」

野崎駅周辺の地図を広げ、未来の野崎がどんな姿になったら良いか、みんなでアイデアを出し合いました。
アイデアを出し合うことで４つの傾向が見えました。

趣味や文化を介して交流する暮らし	助け合える・見守りのある暮らし	学生と気軽に関われる暮らし	外部の人と交流ができる暮らし
・読書や作業できる場所がある ・ミニシアターがある ・古着や音楽を扱う店がある ・ドッグランがある　など	・親子が安心して楽しめる ・防災に意識を向けられる ・水と近い暮らし　など	・学生がアルバイトしやすい ・学生が企画し活動できる ・学生が手軽にご飯を買える ・大学生と連携した情報発信　など	・参拝や登山帰りに食事ができる ・水や山をテーマにした回遊ルート ・来訪者と住民が交流できる ・こだわりを持った情報発信　など

調査イベント　11/15（土）11:00-17:00　もしも野崎に「楽しそうな空き地」があったら

調査イベントでは、これまでのワークショップや地域住民へのヒアリングから見えてきた野崎エリアのビジョン（仮説）「もしも野崎に『〇〇〇』があったら」をまとめたパネルを見ながら、このまちに暮らす人たちと未来のことを考えられる交流の場をつくりました。

野崎周辺には、駅前や商店街、住宅地の他、まだ十分に活用されていない空き地がいくつもあります。これらの場所が“このまちらしい場”になるにはどんな使い方があるのか？

周辺にお住まいのみなさんや子どもたち、ハイカー、商店主などから寄せられた声は、これからの野崎を考えるための大切なヒントとなりました。

仮説カードや地図を見ながら野崎の未来を話し合う

場を開くとジャグリングのお披露目が自然発生的に

くつろげる空間が生まれると思い思いの時間を過ごし始める

2　11/25（火）18:30-21:00　ビジョンの実現方法をみんなで考えよう！

第２回は、調査イベントで得られたアイデアをブラッシュアップしました。

ワーク「野崎で実現したいことを考えよう」

調査イベントで集まった地域の人たちの声をもとに、ビジョンにどう反映していくかを考えました。

●テーブルAのアイデア

野崎には留学生も多く住んでいることから、中国・韓国・ベトナムなどさまざまな国の学生と地域の人が自然に交流できる場があればいいという話が出ました。例えば、パラレルビレッジに集まって各国の料理をふるまうイベントを開いたり、世界のボードゲームを楽しめる時間をつくったりする。そうした機会があれば、留学生の「働く場所が少ない」「日本人と接点がない」といった悩みにも応えられます。また、子どもたちにとっても異文化に触れられる良い機会になり、価値観が広がるはずです。地域の回遊性をつくり、既存の資源をどう活かすかという視点も出ていました。

●テーブルBのアイデア

野崎を愛する人たちが集まり、やりたいことを相談できる案内所のような場所があればいいという話になりました。例えば、「こういうことに挑戦したい」という人が来れば、「それならこの人を紹介しますよ」とつなげる。月に一度、店主や住民が集まって相談会のような場を開き、雑貨や映画、イベントなど興味の近い人がコーヒーを飲みながら話せる時間をつくる。そんな小さな交流拠点が野崎には必要だというアイデアです。「すべては野崎を好きだという気持ち＝野崎愛から始まる」という言葉が印象的でした。

調査イベントで得たまちの人たちの声を確認
子育て世帯やハイカーなど夜の会議には来にくい人たちの考えをインプットできる貴重な時間でした。

テーブルAは「ビジョンとは？」を真剣に議論
「ビジョン＝まちの想いを集めた絵」それが輪のように連なるイメージだということが見えました。

テーブルBの話題の中心は「野崎愛！」
外から来た参加者や大学教員などの視点を通して、野崎を見ると魅力あふれるまちだということが見えました。